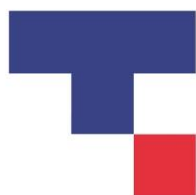


# ***Joy*watcher**

i Mail User's Manual



TOKYO GAS



■

## ■ 目次

### ■ 1 JoyWatcher i Mail とは 5

- 1.1 i メールの動作 5
- 1.2 設定情報について 6
- 1.3 メール送信によるメールサーバー認証 7

### ■ 2 使用手順 8

### ■ 3 i メール起動 10

- 3.1 通常起動 10
- 3.2 パラメータ指定起動 10
- 3.3 パラメータの設定 10
- 3.4 終了処理 11

### ■ 4 実行処理の設定 12

### ■ 5 メールサーバーの設定 13

- 5.1 Pop の設定 13
- 5.2 SMTP の設定 13
- 5.3 ダイアルアップ接続をする場合 13
- 5.4 Pop Before SMTP 認証方式で送信する場合 13

### ■ 6 メール内容の編集 14

- 6.1 メールタイトルの記入 14
- 6.2 送信先アドレス入力 14
- 6.3 メール内容の編集 15
- 6.4 ファイルの読み込み 15
- 6.5 ファイルの添付 15
- 6.6 メール送信後のファイル削除 15

### ■ 7 ログの表示・保存 ( Exe の戻り値 ) 16

7.1	ログの表示 (Exe の戻り値)	16
7.2	ログの保存	17
■ 8	ファイルによる設定・保存	18
8.1	ファイルの読み込みによる設定	18
8.2	ファイルによる設定情報の保存	18
■ 9	i メールの実行	19
9.1	i メールの実行	19
9.2	メール送信に伴う各処理の個別実行	19
■ 10	ファイル形式について	20
10.1	ファイル操作の対象	20
10.2	設定情報ファイルの保存形式	20
■ 11	JWIMail 用 ActiveX 部品	23
11.1	インストール	23
11.2	アンインストール	23
11.3	VB からの実行	23
11.4	メソッド	23
■ 12	JoyWatcher イベントマネージャ との連携	25
12.1	処理の流れ	25
12.2	文字置換機能の設定	25
12.3	連携動作	26

# 1 JoyWatcher i Mail とは

---

JoyWatcher i Mail（以下、i メール）は、設定情報の読み込みからメール作成、送信までのバッチ処理が可能なメール送信モジュールです。

システム工程監視作業において次のようなケースが考えられます。

- 緊急連絡を関係者へ一斉連絡したい。
- 警報発生時に工程監視時でない場合（作業員が端末近くにいない場合など）でも警報発生情報を特定関係者に通知したい。
- . . .

i メールは、ユーザーがメール作成、送信することはもちろん、実行時パラメータを設定することで、exe ファイル起動動作のみで、メールサーバーへの諸設定や送信先のメールアドレス、送信内容、添付ファイルなどが格納された設定情報ファイルを読み込み、受信者に向けたメールを作成し、そのメールを一斉送信することが可能です。

## 1.1 iメールの動作

i メールは、次のことを行うプログラムです。

- バッチメール送信処理・メール送信処理
  - 設定情報ファイル読み込み
  - 送信メール作成
  - 一斉送信処理

例えば、PLC のあるビットが立った。あるいは、PLC の入力値が異常に大きくなった・・・等のような警報・異常が発生した場合に、異常発生を速やかに特定の人間に通知する必要があるケースが考えられます。そのような場合は JoyWatcher イベントマネージャ（※）でユーザーが設定した PLC の異常・アラームなどのイベントの発生をトリガーとして、イベントマネージャが i メールを起動させます。起動した i メールは指定の設定情報ファイルを読み込み、特定の宛先へメールを一斉送信し、システムの警報を特定の携帯電話（eメール受信機能付）に知らせることができます。バッチ処理を行った i メールは一連の処理終了後、自動終了します。

※JoyWatcher イベントマネージャ：JoyWatcher イベント保存機能モジュール。

## 1.2 設定情報について

バッチ処理においてファイル読み込まれる次の項目のことを“ 設定情報 ”と呼びます。

項目	設定画面
実行処理の分類	環境タブ画面
ダイアルアップの使用の有無	環境タブ画面
Pop Before SMTP の使用の有無	環境タブ画面
Pop サーバー アドレス	環境タブ画面
Pop サーバー ユーザー名	環境タブ画面
Pop サーバー パスワード	環境タブ画面
SMTP サーバー アドレス	環境タブ画面
送信元（ユーザー）アドレス	環境タブ画面
メールタイトル	文章タブ画面
送信先アドレス（複数可）	文章タブ画面
送信先 B c c アドレス（複数可）	文章タブ画面
送信内容（本文）	文章タブ画面
読み込みファイル名（複数可）	文章タブ画面
送信後、読み込みファイル削除の有無	文章タブ画面
添付ファイル名（複数可）	文章タブ画面
送信後、添付ファイル削除の有無	文章タブ画面
ログ保存の有無	実行タブ画面
ログ保存ファイル名	実行タブ画面

基本的には、環境タブ画面、文章タブ画面および実行タブ画面で設定されるすべての項目です。

### 1.3 メール送信によるメールサーバー認証

メールサーバー（SMTP サーバー）が、SPAM(迷惑メール)の中継などに悪用されないよう、POP Before SMTP という認証方式があります。ISPによっては、POP Before SMTP 対応した送信処理でないとメール送信が正常に行えない場合があります。

i メールでは POP before SMTP 方式にも対応しており、簡単な操作により当方式のメール送信処理を行えます。

#### POP before SMTP

Pop Before SMTP とは、メールを送信する前（Before SMTP）に受信（POP）操作により認証（POP 認証）を行い、送信者をそのメールサーバーの正規の利用者であるとみなすことで制限が解除され、メール送信を可能とするものです。

## 2 使用手順

---

i メールの使用手順を示します。

□ **手順1**：iメールの起動

iメールの起動の仕方には次のようなものがあります。

通常起動

パラメータ指定起動

詳細については「3. iメールの起動」を参照してください。

□ **手順2**：実行処理の設定

実行処理の設定を行う必要があります。

詳細については「4. 実行処理の設定」を参照してください。

□ **手順3**：メールサーバーの設定

メール送信の為にメールサーバーの設定を行う必要があります。

詳細については「5. メールサーバーの設定」を参照してください。

□ **手順4**：メール内容の編集

メール編集をします。

メール編集には次のようなものがあります。

メールタイトル

送信先入力

テキスト編集

ファイル読み込み

添付ファイル

詳細については「6. メール内容の編集」を参照してください。

□ **手順5**：ログの表示・保存

メール送信処理についてのログを表示・保存します。

ログの保存には次のようなものがあります。

ログの表示

ログの保存

詳細については「7. ログの表示・保存」を参照してください。



□ **手順6**：ファイルによる設定・保存

ファイルのリストアにより、手順2、3、4を一度に設定できます。

また、(設定した) 設定情報をファイルに保存します。

詳細については「8. ファイルによる設定・保存」を参照してください。

□ **手順7**：実行

メール送信を実行します。

メール送信の実行には次のようなものがあります。

ダイアルアップ接続

通常送信処理

POP before SMTP 方式送信処理

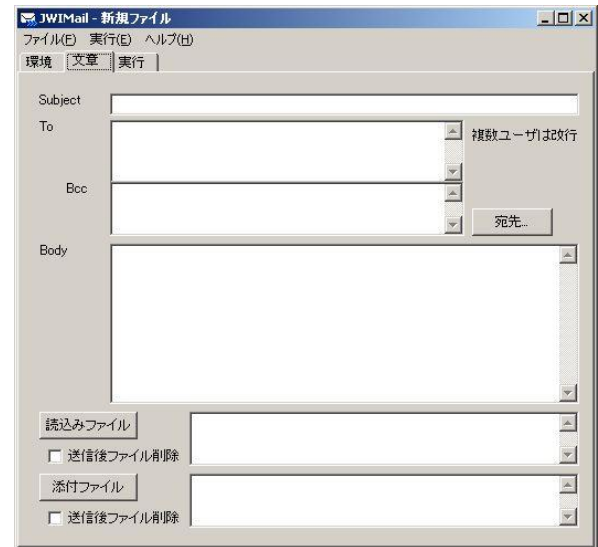
詳細については「9. iメールの実行」を参照してください。

## 3 iメールの起動

iメールの起動には、通常の起動とパラメータを指定して起動する方法があります。

### 3.1 通常起動

JWIMail.exe を実行します。実行後、iメール が起動し、右のような画面が表示されます。



### 3.2 パラメータ指定起動

パラメータを指定することで、起動後、以下のように一連の動きをします。

- ① iメール起動
- ② 設定ファイル読み込み
- ③ メール作成
- ④ メール送信
- ⑤ iメール終了

### 3.3 パラメータの設定

起動時の画面

#### ■ 設定方法

- ① Mail.exe のショートカットを作成します
- ② ①を右クリック、『プロパティ』を選択します。
- ③ 『ショートカット』タブの『リンク先』に『・・・JWIMail.exe』の後に続いて、適切なパラメータを記入します。

パラメータ	用途	設定箇所
/r 設定ファイル名	読み込みファイル指定	“・・・JWIMail.exe”の直後に（第1パラメータとして）半角スペースに続いて記入します。
/Pn 任意文字列 (上記の n は 1～9 の数字)	文字置換指定 (次ページ参照)	“/r 設定ファイル名”の後に（第2～10パラメータとして）半角スペースに続いて記入します。

※ “/r”（または“/Pn”）と “設定ファイル名”（または “任意文字列”）の間は半角スペースを入れます。設定文字はすべて半角です。

## ■ 文字置換機能

i メールでは、実行時パラメータに設定を行うことにより、送信メール本文の特定文字列をパラメータで指定した文字列に置換することができます。

パラメータ指定	メール本文 被置換文字列	説明
/Pn 任意文字列 (上記 n は 1～9 の数字)	<%n> (上記 n は 1～9 の数字)	パラメータで設定した ” /Pn ” の n と対応するメール本文中の ” <%n> ” 位置に、任意文字列 (パラメータ設定した) を置換します。

設定文字はすべて半角です。

例)

### 実行時パラメータ設定

C:\¥JWIMail.exe /r C:\¥01.jim /p1 温度異常 /p2 計測器A /P9 田中 /P1 エラー 1

### 設定ファイルのメール本文

緊急通知 → <%1>が発生しました。  
異常種類：<%1> 発生計器：<%2> 連絡：<%9>



### 実際に送信されるメール本文

緊急通知 → 温度異常が発生しました。  
異常種類：温度異常 発生計器：計測器A 連絡：田中

- ・            は置換された文字列
- ・ 実行時パラメータで同一の要素が定義されている場合は、左側（先に設定した要素）が優先度高となります。

## 3.4 終了処理

フォームの右上、 ボタン押下で終了します。

## 4 実行処理の設定

実行タブ画面の上部のボタン（通常は『メール送信』ボタン）を押下した後の動作の設定をします。ボタン押下時動作は、環境タブ画面の上部（下図参照）で設定します。以下の3種類の設定が可能です。

- メール送信（通常処理）
- ダイヤルアップ処理のみ
- 切断処理のみ

これは例えば、異常発生の際に発生情報をファイルに保存し、iメールがそのファイルを読み込み（または添付して）送信するといった一連の動きがあるとします。これをダイヤルアップ接続で実現していた場合、その都度ダイヤルアップしていると時間や費用がかかってしまいます。そのため、

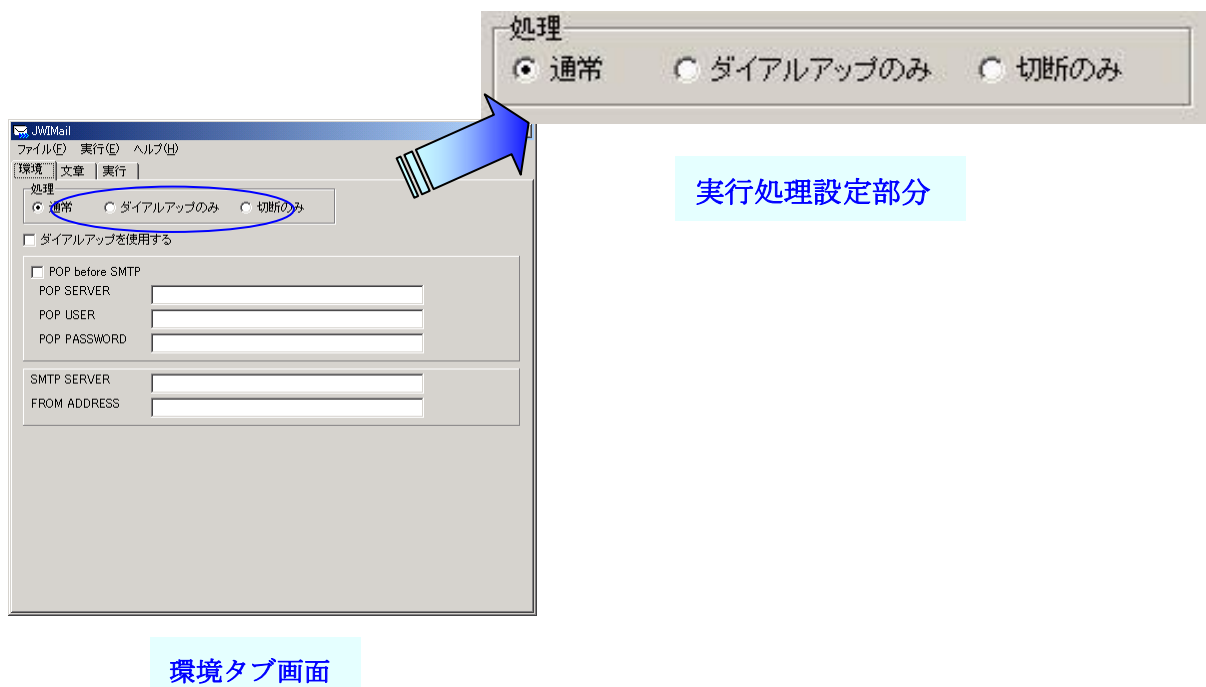
ダイヤルアップ処理のみ→異常発生①→発生ファイル①作成→送信

→異常発生②→発生ファイル②作成→送信

→異常発生③→発生ファイル③作成→送信

・・・・・・ →切断処理のみ

とすると、問題を回避できます。



## 5 メールサーバーの設定

i メールの使用にあたり、メール送信の為の設定が必要となります。

### 5.1 Pop の設定

環境タブ画面で、以下の項目を設定する必要があります。（下図参照）

- Pop サーバーのアドレス
- ユーザー名
- パスワード

### 5.2 SMTP の設定

環境タブ画面で、以下の項目を設定する必要があります。（下図参照）

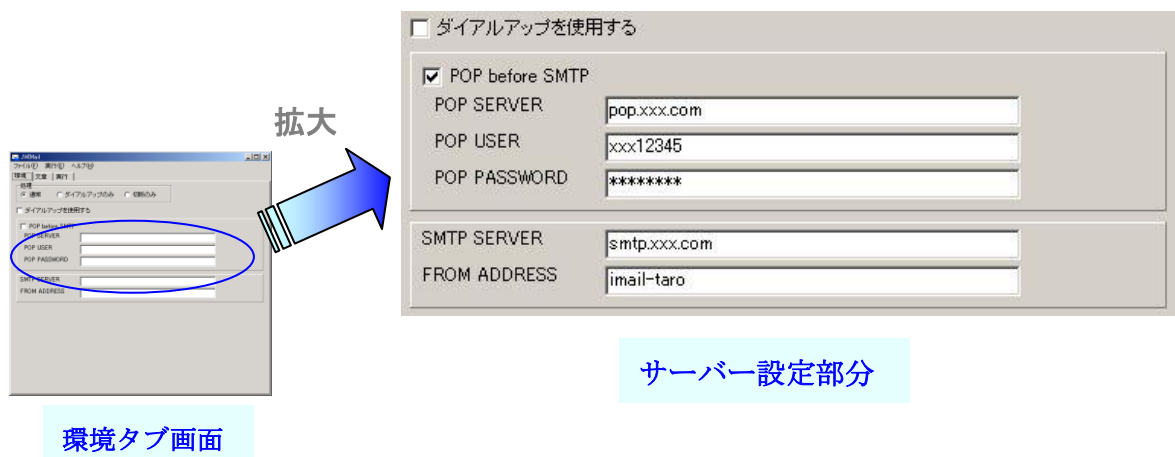
- SMTP サーバーのアドレス
- 送信者（ユーザー）のアドレス

### 5.3 ダイヤルアップ接続をする場合

ダイヤルアップ接続でメール送信をする場合は、環境タブ画面で、『ダイヤルアップを使用する』チェックボックスにチェックする必要があります。（下図参照）

### 5.4 Pop Before SMTP 認証方式で送信する場合

Pop Before SMTP によるメール送信をする場合は、環境タブ画面で、『POP before SMTP』チェックボックスにチェックをすることで Pop Before SMTP によるメール送信が可能になります。（下図参照）



## 6 メール内容の編集

メール送信の際、送信する相手先の指定、題名、内容の編集等をする必要があります。

### 6.1 メールタイトルの記入

文章タブ画面で、『Subject』の右にある入力欄にメールの題名を入力します。(次ページ下図参照)

### 6.2 送信先アドレス入力

送信先アドレスの入力方法には、直接アドレスを入力する方法と、『宛先』ボタンから送信先アドレスを選択・入力する方法があります。(本ページ下図、次ページ下図参照)

#### ■ アドレスの直接入力

文章タブ画面で、『To』ボタン（または『Bcc』）の右にある入力欄に送信先メールアドレスを入力します。

#### ■ アドレスの選択入力

- ① 文章タブ画面で、画面中央右部にある『宛先』ボタンを押下して下さい。宛先設定ダイアログが表示されます。
- ② 表示された宛先設定ダイアログで、『アドレスリスト』にリストアップされているアドレスを選択します。その後、『To に追加>>>』ボタン（または『Bcc に追加>>>』ボタン）を押下すると受信者リストに追加されます。
- ③ ②作業を繰り返し、編集を終えたら、『OK』ボタンを押下し、文章タブ画面へ戻ります。戻った文章タブ画面の宛先アドレス入力欄には、設定入力した宛先アドレスが追加されています。

#### 宛先設定ダイアログ

アドレスリストからアドレスをメールの受信者リストへ追加。または、その逆（受信者リスト→アドレスリスト）の作業を助けるインターフェイス。アドレスリストの編集（追加・変更・削除・登録）のみも可能。



環境タブ画面 宛先入力部分



宛先設定ダイアログ

### 6.3 メールの内容の編集

文章タブ画面で、『Body』の右にある入力欄にメールの内容（本文）を入力します。  
（下図参照）

### 6.4 ファイルの読み込み

文章タブ画面で、『読み込みファイル』ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが表示されます。表示されたダイアログで、読み込みファイルを指定・入力します。

『読み込みファイル』ボタンの右にある入力欄に直接ファイル名（フルパス）を入力することもできます。

以上のように、『読み込みファイル』で指定されたファイルは中身が展開され、本文の後に追加されて送信されます。（下図参照）

### 6.5 ファイルの添付

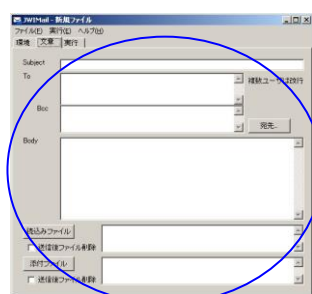
文章タブ画面で、『添付ファイル』ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが表示されます。表示されたダイアログで、添付ファイルを指定・入力します。

『添付ファイル』ボタンの右にある入力欄に直接ファイル名（フルパス）を入力することもできます。

以上のように、『添付ファイル』で指定されたファイルは、メールに添付されて送信されます。（下図参照）

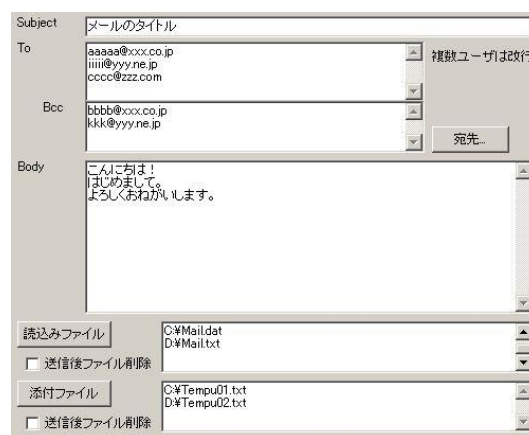
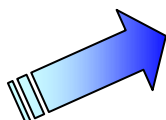
### 6.6 メール送信後のファイル削除

文章タブ画面で、『読み込みファイル』ボタン、『添付ファイル』ボタンの下にある『送信後ファイル削除』にチェックするとメール送信後、ファイルが自動的に削除されます。



環境タブ画面

拡大



メール内容設定部分

## 7 ログの表示・保存（ Exe の戻り値 ）

メール送信動作のログが、処理時の日時に続いて実行タブ画面の中央部に表示されます。

例： 2002/10/21 15:45:22:Pop3 Try Success  
2002/10/21 15:45:21:Pop3 Try Connect  
・  
・

### 7.1 ログの表示（Exe の戻り値）

ログの表示内容は次の通りです。また、次の内容(処理結果)は、パラメータ指定で i メールを起動したときの e x e の戻り値となっています。

戻り値	表示ログ文字列	説明
100	Try Dialup	ダイヤルアップ接続処理開始
110	Dialup Success	ダイヤルアップ接続成功
120	Dialup FAIL	ダイヤルアップ接続失敗
130	Pop3 Try Connect	Pop3 コネクト生成処理開始
140	Pop3 Success	Pop3 コネクト生成成功
150	Pop3 Error+エラーメッセージ	Pop3 コネクト生成失敗:例外エラーメッセージ
160	Pop3 Disconnect	Pop3 コネクト切断
170	Try Send Mail	メール送信処理開始
180	Send Mail Success	メール送信処理成功
190	Send Mail Error+エラーメッセージ	メール送信処理失敗: 例外エラーメッセージ
200	Hang-Up	ダイヤルアップ切断

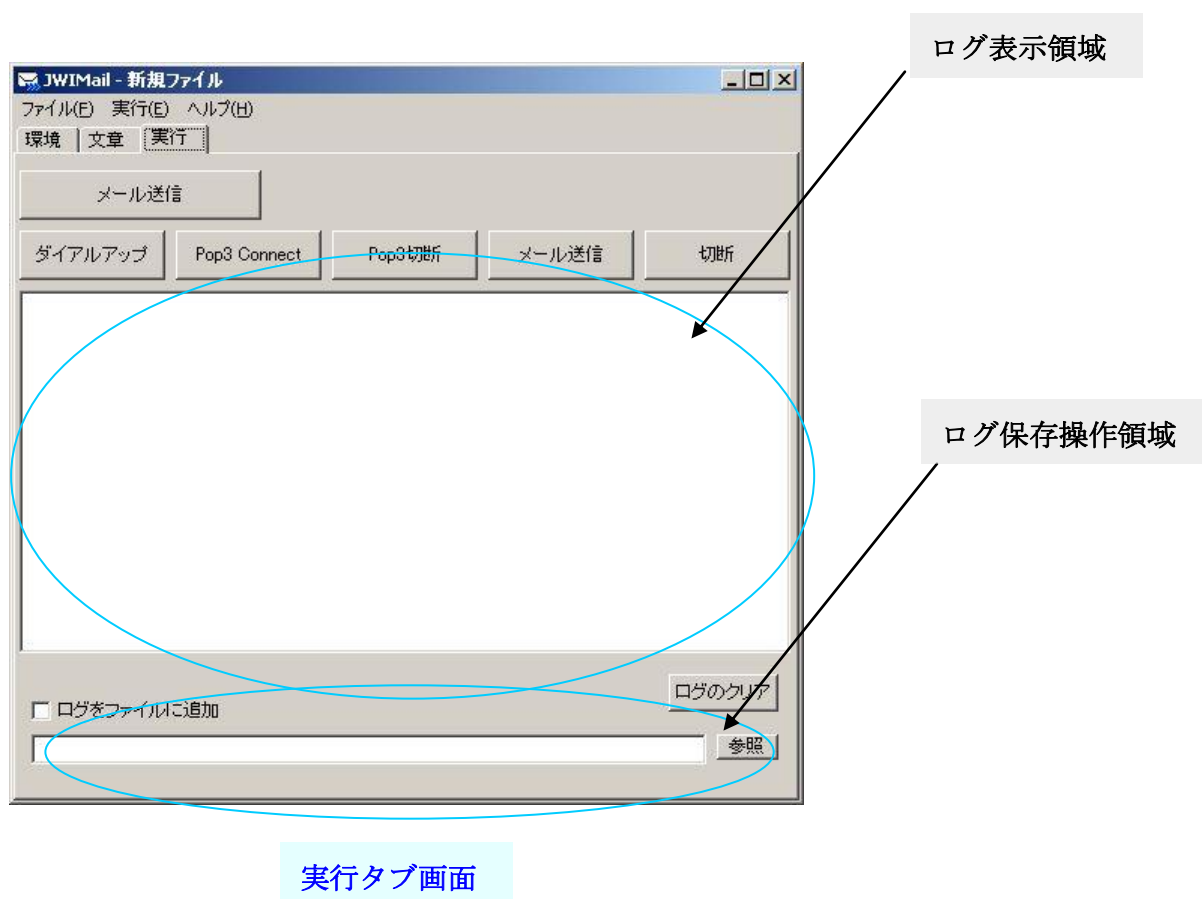
表示されたログを消去したい場合は、実行タブ画面の右下部にある『ログのクリア』ボタンを押下してください。表示されていたログが消去されます。(次ページ下図参照)



## 7.2 ログの保存

実行時に表示されるログをファイルに保存することができます。(下図参照)

- ① 実行タブ画面の左下部にある『ログをファイルに追加』チェックボックスにチェックしてください。このチェックの有無が、ログを保存するかどうかの判定基準となります。
- ② 次に、実行タブ画面の左最下部にある『参照』ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが表示されます。表示されたダイアログで、ログ保存ファイルを指定・入力します。『参照』ボタンの左にある入力欄に直接ファイル名（フルパス）を入力することもできます。
- ③ ①、②の設定は必ずメールの送信を実行する前に行ってください。以上の設定で、指定のファイルにメール送信処理時のログが保存されます。



## 8 ファイルによる設定・保存

---

設定情報をバックアップ・リストアできます。

### 8.1 ファイルの読み込みによる設定

既存のファイルを開く（リストア）ことで、一連の設定作業が短縮されます。

#### ■ ファイル名を指定して開く

メニューバーの『ファイル(F)』―『開く(O)』選択で、ファイル選択ダイアログが表示されます。表示されたダイアログで、開く対象のファイルを指定し、『開く』ボタンを押下します。指定したファイルの内容が環境タブ画面、文章タブ画面および実行タブ画面の設定項目へリストアされます。

#### ■ 最近使ったファイルを開く

メニューバーの『ファイル(F)』―『最近使ったファイル(R)』選択で、最近使ったファイル名リストが表示されます。表示されたリストで、希望する項目を選択します。指定したファイルの内容が環境タブ画面、文章タブ画面および実行タブ画面の設定項目へリストアされます。

### 8.2 ファイルによる設定情報の保存

入力した設定情報をファイルに保存できます。

#### ■ 上書き保存する

メニューバーの『ファイル(F)』―『上書き保存(S)』選択で、ファイルが上書き保存されます。もし、現在の設定情報が新規のものであれば（ファイルを開いて編集したものでない）、ファイル選択ダイアログが表示されます。表示されたダイアログで、保存するファイルを指定、またはファイル名を入力し、『保存』ボタンを押下します。指定したファイルへ環境タブ画面、文章タブ画面および実行タブ画面の設定項目が保存されます。

#### ■ 名前を付けて保存する

メニューバーの『ファイル(F)』―『名前を付けて保存(A)』選択で、ファイル選択ダイアログが表示されます。表示されたダイアログで、保存するファイルを指定、またはファイル名を入力し、『保存』ボタンを押下します。指定したファイルへ環境タブ画面、文章タブ画面および実行タブ画面の設定項目が保存されます。

## 9 iメールの実行

設定された情報に基づき、iメールを実行します。

### 9.1 iメールの実行

『4. 実行処理の設定』で設定した動作を実行します。

実行する為には、実行タブの上部にある『メール送信』ボタン（『通常』設定時）、または『ダイヤルアップ』ボタン（『ダイヤルアップのみ』設定時）、または『切断』ボタン（『切断のみ』設定時）を押下します。（下図参照）

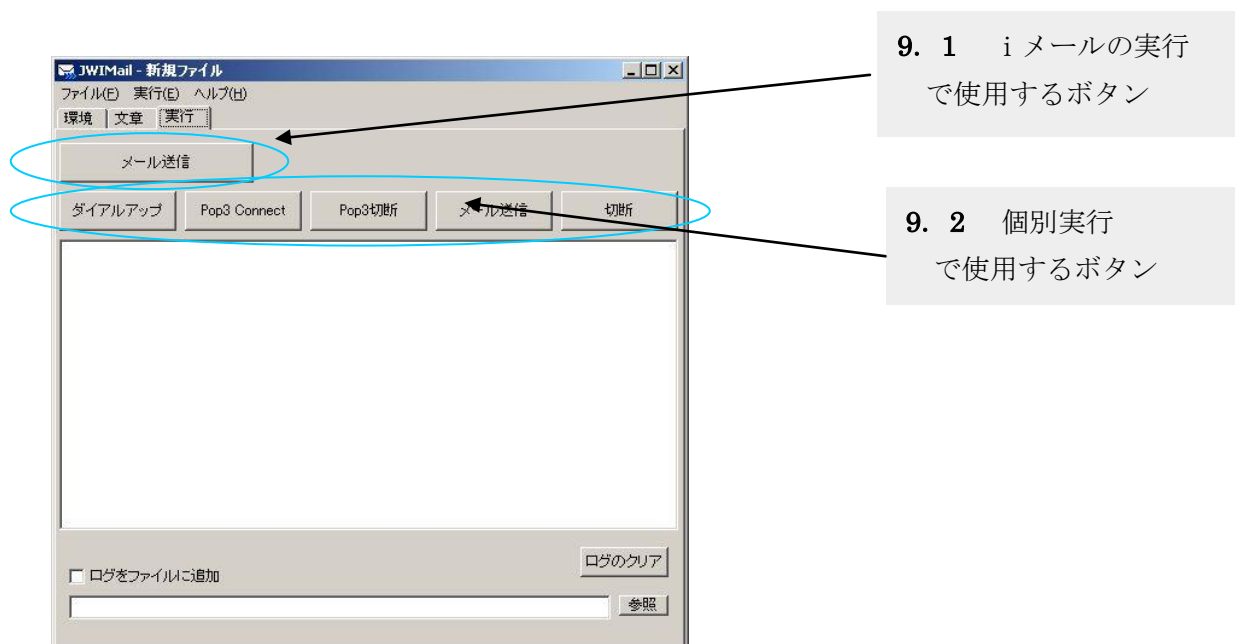
『実行(E)』メニューからも同様にiメールの実行処理が可能です。

### 9.2 メール送信に伴う各処理の個別実行

メール送信処理は、設定された情報に基づき下記の処理を上から順次実行します。

- ダイヤルアップ                      (ダイヤルアップ設定時)
- POP3接続                         (Pop Before SMTP 設定時)
- POP3切断                         (Pop Before SMTP 設定時)
- メール送信
- ダイヤルアップ切断              (ダイヤルアップ設定時)

iMailでは、この各処理を個別にユーザーが実行させることができます。（下図参照）  
実行タブの『ダイヤルアップ』ボタン、『Pop3 Connect』ボタン、『Pop3 切断』ボタン、  
『メール送信』ボタン、『切断』ボタン、を期待する動作にあわせて押下してください。



実行タブ画面

## 10 ファイル形式について

i メールでは、ファイル操作の対象として、設定情報、送信先アドレスリスト、ログ情報、読み込みファイル、添付ファイル があります。

### 10.1 ファイル操作の対象

ファイルの操作の分類、拡張子は以下の通りです。

ファイル内容	拡張子	処理
設定情報	JIM	開く・上書き保存・名前を付けて保存
アドレスリスト	ADD	開く・保存（開く、保存 両処理共、ファイル名指定不可）
ログ情報	LOG	名前を付けて保存
読み込みファイル	*	送信メール本文に展開・追加
添付ファイル	*	送信メールに添付

### 10.2 設定情報ファイルの保存形式

- JIM という拡張子の設定情報ファイルのファイル形式は以下の通りです。

- 設定項目 1 項目毎の形式（以下の形式が項目数分繰り返される）

```
AAAAAA_BB CRLF      ←項目名
1 CRLF               ←項目データ数
xxxxxxx CRLF         ←データ(内容)
```

- <例>

```
JWBATCHMAIL 100CRLF  #固定ヘッダ
EXE_KIND CRLF        #実行処理の分類
1 CRLF               #↓データ数
0 CRLF               # 実行処理（0：通常
                        1：ダイヤルアップのみ
                        2：切断のみ）
USE_DIALUP CRLF      #ダイヤルアップ
1 CRLF               #↓データ数
0 CRLF               #ダイヤルアップ接続有無（0：無 1：有）
POP_BEFOR_SMTP CRLF  #Pop Before SMTP
```

1 CRLF	#↓データ数
1 CRLF	# Pop Before SMTP 有無 (0 : 無 1 : 有)
POP_SERVER CRLF	# Pop サーバー
1 CRLF	#↓データ数
pop.xxx.com CRLF	#Pop サーバーアドレス
POP_USER CRLF	#Pop ユーザー
1 CRLF	#↓データ数
xxx12345 CRLF	#ユーザー名
POP_PWD CRLF	#Pop パスワード
1 CRLF	#↓データ数
himituno CRLF	#パスワード内容
SMTP_SERVER CRLF	#SMTP サーバー
1 CRLF	#↓データ数
smtp.xxx.com CRLF	# SMTP サーバーアドレス
FROM_ADDR CRLF	#送信者アドレス
1 CRLF	#↓データ数
imail-taro CRLF	#送信者
SUBJECT CRLF	#メールタイトル
1 CRLF	#↓データ数
メールのタイトル CRLF	#メールタイトル内容
TO CRLF	#宛先
3 CRLF	#↓データ数
aaaaa@xxx.co.jp CRLF	#宛先内容 01
iiii@yyy.ne.jp CRLF	# 02
cccc@zzz.com CRLF	# 03
BCC CRLF	#宛先 (B c c)
2 CRLF	#↓データ数
bbbb@xxx.co.jp CRLF	#宛先内容 01
kkk@yyy.ne.jp CRLF	# 02
BODY CRLF	#メール内容
3 CRLF	#↓行数
こんにちは！ CRLF	#メール内容 01 行目
はじめまして。 CRLF	# 02 行目
よろしくおねがいします。 CRLF	# 03 行目
INCLUDE_PATHS CRLF	#読み込みファイル
3 CRLF	#↓データ数

C:¥Mail.log	CRLF	#読み込みファイル名	01
C:¥Mail.dat	CRLF	#	02
D:¥Mail.txt	CRLF	#	03
DELETE_INCLUDEFILE	CRLF	#読み込みファイルの削除有無	
1	CRLF	#↓データ数	
0	CRLF	#削除の有無（0：無 1：有）	
ATTACH_PATHS	CRLF	#添付ファイル	
2	CRLF	#↓データ数	
C:¥Tempu01.txt	CRLF	#添付ファイル名	01
D:¥Tempu02.txt	CRLF	#	02
DELETE_ATTACHFILE	CRLF	#添付ファイルの削除有無	
1	CRLF	#↓データ数	
0	CRLF	#削除の有無（0：無 1：有）	
SAVE_LOG	CRLF	#ログをファイルに追加	
1	CRLF	#↓データ数	
1	CRLF	#ログをファイルに追加（0：無 1：有）	
LOG_PATH	CRLF	#ログファイル	
1	CRLF	#↓データ数	
C:¥Smp00.JIL	CRLF	#ログファイル名	

## 11 JWIMail 用 ActiveX 部品

---

JWIMail を VB 等のプログラムから簡単に使用するために、JWMailExec.ocx が付属します。この部品は、次のことが実行可能です。

1. ダイアルアップ
2. 切断
3. 任意の EXE を起動し、終了することを待つ

### 11.1 インストール

インストーラは、付属しません。JWMailExecXControl1.ocx を適切なフォルダにコピーし、コマンドラインから次のコマンドを実行ください。

REGSVR32 JWMailExecXControl1.ocx

REGSVR32 のパスがとっていないと実行できませんので。パスが通っていない場合には、次のようにフルパスで実行してください。

c:\¥Winnt¥system32¥regsvr32 JWMailExecXControl1.ocx

### 11.2 アンインストール

特に、レジストリ等書き込みを行いませんので、次のコマンドを実行してください。

Regsvr32 /u JWMailExecXControl1.ocx

### 11.3 VB からの実行

VB には、JWMailExec という名前で登録されます。コントロールの追加で、JWMailExec を選んでください。

### 11.4 メソッド

#### ■ ダイアルアップ (Dialup)

通常の設定に設定されているダイアルアップの設定にしたがって、ダイアルアップを実行します。

VB の例

```
ret = JWMailExec1.Dialup
```

成功した場合には、0以外の値が返ります。

#### ■ 切断 (Hangup)

ダイアルアップを切断します。

VB の例

```
JWMailExec1.Hangup
```

戻り値はありません。

#### ■ 実行(EXECUTE)

任意プログラムを実行します。実行ファイルはフルパスで書いてください。

VB の例

```
ret = JWMailExec1.Execute(“c:¥¥JW¥¥JWIMail.exe /r c:¥aaa¥aaa.jim”)
```

戻り値は、EXE の起動が成功すれば、JWIMail と同じです。



## 12 JoyWatcher イベントマネージャ との連携

i メールでは、JoyWatcher イベントマネージャ（以下 イベントマネージャ）との連携時に、実行時パラメータによる文字置換機能（3.3 参照）を利用することで、イベントマネージャの情報（内容・発生時刻・DBに書き込む値）をメール本文に表記することができます。

### 12.1 処理の流れ

- ①登録済みイベントをイベントマネージャが検出する。
- ②イベントマネージャが「イベント設定—プログラム起動」に設定してあるプログラム（i メール）を起動させる。
- ③イベントマネージャにより起動された i メールは、実行時パラメータ（イベントマネージャの「イベント設定—プログラム起動」で設定した）の指定に従い動作する。（JIM ファイル読み込み、置換文字列の受け渡し）
- ④ i メールは、読込んだ JIM ファイルの設定に従い動作（文字置換・メール送信 など）する。

### 12.2 文字置換機能の設定

#### ■ イベントマネージャ

イベント設定タブ—プログラム起動

- ・実行ファイル名：JWIMail.exe フルパス
- ・パラメータ（3.3 参照）：
  - ① /r 読み込み JIM ファイル フルパス
  - ② /Pn 置換文字列（ここで、イベントマネージャからの情報（内容、発生時刻、DBに書き込む値）を取得したい場合は、それぞれ、%c（内容）、%t（発生時刻）、%v（DBに書き込む値）、を記入する。）

#### ■ i メール

文章タブ Body（3.3 参照）

イベントマネージャで設定した置換文字列を挿入したい個所に <%n> の書式で指定。

上記、文章タブ—Body 設定を反映させた JIM ファイルを作成、保存する（このファイルをイベントマネージャで指定する）。

## 12.3 連携動作

